

# 入中1年人権だより

徳島市 八万中学校  
1年生 第9号  
2022年10月11日  
編集・文責 吉成正士

## みんなが笑顔になれるように

■私は、この5・6時間目の学習を通して、身のまわりのあらゆることが人権、そしてSDGsにつながっているということが分かりました。そして、いろいろな人の意見を聞いて、思いやること、「正しく知って、正しく行動すること」などなどが、より重要ということがよく分かりました。

SDGs17個の目標の内容は違うけど、その根本はすべて、人のことを考えて行動するだったり、続けていくことだったり、共通していました。私はその共通していることをもとに、自分のできることからしていきます。一人の人がしていたら、周りの人も、「じゃあ私も」というふうに、どんどんする(行動に移す)人が増えてくると思います。私はそれを悪口じゃなくて、みんなが笑顔になれるようなことでできたらと思います。これから人のことを考えて、未来のために、いろいろできる人になりたいです。

3組ON

まずは自分が実践する。これは大事ですね。小さなことから構いません。そしてそれを続ける。どこまでも続けていく。続けることが苦しければ長続きしませんから、続けることが当たり前になること。苦しくないこと。楽しいくらいであること。それが、続く秘訣というものです。あと、周りの人を巻き込んでいけると、一緒にできる仲間がいて続きやすいですね。

先日、「次のノーベル賞候補」という人をテレビで見ました。ペロブスカイト太陽光電池というものを2006年に開発した、宮坂力(みやさかつとむ)さんという方です。それは、今よく見かける板状の大きな太陽電池ではなく、ペラペラの薄くて曲がる、フィルム状のものでした。薄くて曲げられるので、どこにでもペタペタ貼りつけられ、太陽光が当たってなくても発電するそうです。しかも高性能で、国内にある原料で、格安に量産できるそうで、世界のエネルギー問題を左右する夢の発明といわれているそうです。すでに海外では実現化しつつあって、日本でも実現すれば、「町全体が発電所になる」とも言われているそうです。

みなさん、自分の身のまわりだけでなく、広い社会にも関心を持ちませんか。新聞を読んだり、ニュースを見たり。すべてを見てとは言いませんが、大きな見出しだけでも眺めてみませんか。分からないこともいっぱいあるでしょう。一緒に考えましょう。分かるところだけつまみ読みするので構いません。眺めていれば、そのうち何となく分かっていきます。世の中が分かってくると、今してる勉強の意味も、少しずつ分かってきますから。

## 地球は一つのシェアハウス

■私は今回の人権集会で、たくさんの人の意見を聞いて、こんな考え方もできるのかと思うことがたくさんあり

ました。特に、川上さんの「地球をシェアハウスだと考える」というものがとても分かりやすく、すごい考え方だなと思いました。私はこの意見を聞いて、もっとSDGsについて考えなければと思われました。

私はいろいろな意見を聞き、SDGsというものの考え方が変わりました。今までは、環境のことや男女平等のことなどしか知りませんでした。SDGsは普段の生活や学校での勉強などもたくさん関わっていることに気がつきました。私は身近なことが関わっているなら、身近にある問題から考えていこうと思います。例えば、暴言などが起きているなら、一人一人がそれを意識し、改善していく感じです。一人が大きなことをするのはとても難しいので、やっぱりみんなで少しずつ続けていくことが、とても大切なことだと思いました。小さなことから意識し、少しずつ身近な問題を解決していって、2030年に豊かな未来を迎えられるよう頑張りたいと思います。

3組MF

3組のKKさんが、こんな発言をしてくれました。

「地球っていうのは、たぶん一つのシェアハウスなんです。いろんな鳥とか亀とかいっぱい一つの家なんです。それで災害っていうのは、例えば水漏れとか壁が壊れたりとか、そういうことなんです。その水漏れになったりとか、食べ過ぎて食料がなくなったりとか、壁が壊れたりって地球の被害は、全部一人の「人間」が起こしてることやけん、シェアハウスに住んでるって考えたら、例えば自分一人だけで家の冷蔵庫の中身全部食べてしまったり、家の壁バンバン壊したり、そういうことだと思うので、そうやって身近に例えて考えたら、もっと分かりやすくなるし、もっとやることが身近に分かりやすくなるのじゃないかなと思います。」

なるほど！ですね。そう考えると、それはヤバイ！と思います。こんなふうに、みんなが感じていることや思っていることを集めて想像を膨らましていくと、もっと新しい何かを生みだせそうな気がします。



## すべてにとって住みやすい未来

■私はいろんな人の考えや思ったことを聞いて、同じ課題でも考えたり、想像することはそれぞれ違うのだなと思いました。聞かれている質問でも一人は環境のこと

について話して、でももう一人は戦争のことを言っていたりで、SDGsは人権や環境問題、食品問題などに対する目標があるけど、そのなかでも視野を広げればいろんなことがSDGsという言葉に関係しているなと思いました。

そして発表者で、「地球は一つのシェアハウス」と表している人がいて、自分にはそんな考え方は思いつかなかったなと思いました。話を聞いていると本当に森林破壊をシェアハウスの壁を壊すというような表現をしていて、それを聞くととても身近なことだと感じました。一人では解決できなくても、たくさんの人と協力すると解決できるように、一人だったらあまり問題のないことでも、同じことをたくさんの人がするととっと大きな問題になることもあるから、してはいけないのは何か、どんなことをしたらいいか、一人一人がよく考えながら過ごすのが大事だと思いました。

私が思い描く未来は、全部の目標が達成できているかは分からないけど、安全で安心できる世界になっていることです。今は、ジェンダーという言葉があるけど、そのときはジェンダーなど関係なく、仲良く笑っていられて、人間以外の動物などにも住みやすい未来を私は思い描きます。

6組FA

他にもKKさんは、「戦争などによって、この国に生まれてくなくなかったとか、生まれてこなければ良かったと思うかもしれない。生まれてこなければ、苦しいことや辛いこともなかったのと思うかもしれない。でもそれは自分を否定するということ。そんなことはあってはならない。自分が自分を信じられるような環境であることが大事」と発言してくれました。それにつなげて1組のOZさんも、「自分がなくなってしまうことは本当に一番怖い」と発言してくれました。

誰かが自分を、自分が自分を否定して、自分の存在が消えてしまうような感覚。空気になってしまうような感覚。これほど悲しくて苦しいことはありません。それが、戦争であり、差別であり、いじめです。そうならないような関係を、「今、ここ」からつくっていきませんか。OZさんがKKさんの名前をあげて発言をつなげていったように、みなさん自身がつながっていくことです。誰一人取り残さないクラス、学年、学校をつくっていくのです。



## 命を失うことは、希望を失うこと

■今回の人権学習に参加して、自分が知らなかったこと、分からなかったこと、考えつかなかったことを学べて、自分のSDGsに向けて活動する幅が広がったんじゃないかと思う。KNさんの飢餓についての発表では考えさせられることが多かった。あらためて食べられるこ

とが当たり前ではないと思ったし、本当に食べる物がなければ、好き嫌いはできないと思った。「〇〇が食べたい」などと言う前に、自分は普段当たり前のように出てきている食事をしっかり食べられているか考えて、食品ロスを減らすためにも、出されている食事は完食を目指したい。

そして吉成先生がおっしゃっていた、きれいな水がないために乳幼児が一日800人ほど亡くなるということは、聞いてものすごく驚いた。生まれて間もなく命を亡くした子も、数年しか生きられなかった子も、目標が達成できている世界であれば命を失うことなく生きられたんだろうと思うと、多くの人数を救うために一人一人が目標を意識して、できるだけ早く達成したいという気持ちが深くなった。目標を達成するために、自分にできることを積極的にしていきたい。

6組YK

想像してみてください。昨日も今日も亡くなった赤ちゃんや子どもの中には、とてつもなくすごい能力を持った子もいたかもしれないということを。なかには、メッシを越えるようなサッカーの能力を持った子もいたかもしれません。大谷翔平を越えるような能力を持った子もいたかもしれません。オリンピックに出れば金メダルを獲るような子もいたかもしれません。全世界を巻き込むような芸術センスを持った子もいたかもしれません。なかには、ペロブスカイト太陽電池を発明した宮坂力さんのような、人類の未来を切り拓く才能を持った子もいたかもしれません。そんなすごい能力はなくても、ささやかでも、誰かの役に立って、幸せな気持ちにできる子もいたはずです。それを失うことは、私たちにとって大きな損失ではないでしょうか。どんな命も大切なのです。失っていい命なんてありません。だから、変わりませんか。そして、続けていきませんか。



最後の方で私から、「コロナ前に戻る」ということについて、「戻ってはいけない」と言いました。もとに戻ってしまうことのなかには、SDGsに反することもあるように思います。だから、もと来た道に戻るのではなく、別の新しい道を進む必要があるように思うのです。どうかみなさん、曇りのない眼でよく見て、コロナ後の行動を考えてみてください。

学年全体で集まって人権学習をするのは、人権作文発表会を入れると3回めとなりました。発言の数も人も、回を追うごとに増えています。内容も広く深くなっているように感じられます。今回初めて手を挙げてくれた人もいます。どうでしたか？緊張しましたか？ドキドキしましたか？頭の中は真っ白になりませんでしたか？それも一つの勇氣ある行動です。それを続けていくことです。なかには、自分の持っているマイクを、次の人に渡しに行ってくれた人もいました。それもまた、マイクを通じて人とつながる大切な行動です。

また発表はできなかったけど、しっかり眼で聴いている人もいました。そのまなざしがあるから、発表する人も気持ちよく発表できるのです。そのまなざしが大事なのです。しっかり聴いて、自分の中に芯をつくっていくことです。

これからも学年みんなで語り合う時間をつくっていきましょう。そして、みんなで共に伸びていきましょう。